


ウガンダ共和国		首都	カンパラ
 <p>中央に入っている鳥は、民族のシンボルとして愛されている「カンムリツル」で、黒はアフリカ大陸を、黄は夜明けの太陽の光を、赤はアフリカ人の兄弟愛、同胞愛を表している。</p> <p>独立：1962/10/9 英国より 国連加盟：1962/10/25 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 24万 1,000 km ² (ほぼ本州と同じ) 赤道直下の内陸国で、平均標高 1,200mの高原に位置し、南には世界第 2 位のビクトリア湖がある。西部国境には、世界最大といわれる東アフリカの大地溝帯が走っている。南西部（ルウェンゾリ山地）および東部の国境に山岳地帯がある。湖が多く、総面積の約 15%が湖や沼沢である。
		人口	2,880 万人
		言語	英語（公用語）、スワヒリ語（公用語）、ルガンダ語
		通貨	ウガンダ・シリング
		気候	赤道直下ではあるものの高原であるため、気候は温暖である。特にビクトリア湖周辺は温度差も小さく快適である。降雨量は全般的に多く、年平均 1, 000mm と東アフリカで最大である。3 月～5 月、9 月～10 月が雨季である。
		民族	ブガンダ族 18%、又ヨロ族 14%、ツルカナ族 11%
		宗教	カトリック 33%、プロテスタント 33%、原始宗教 18%、イスラム教 16%
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育 7 年間（6 歳～12 歳）、前期中等教育 4 年間、後期中等教育 2 年間、高等教育 4 年間である。 ・前期中等教育に並行して、技術学校（3 年間）、後期中等教育に並行して専門技術学校（2 年間）と初等教員養成校（2 年間）がある。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育制度はとられていないが、初等教育無償化政策が導入され、ほぼ 90%の子どもが 6 歳から 12 歳までの初等教育に就学している。 ・初等教育無償化政策により 1997 年より、各家族のうち 4 人までが無料で学校に行ける。（UPE 政策） <p>その年の 1 月 1 日までに満 6 歳になる者は、その年の 2 月第 1 週に初等教育の第 1 学年に入学する。</p>	

<p>日本と比較した教育課程上の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は原則英語で行われる。 ・初等・中等教育のカリキュラムおよび補助教材は、国立カリキュラム開発センターが作成する。 ・初等教育における必須科目は英語、社会科、基礎科学、数学であったが、2002年からは農業、宗教教育が加わり、2004年からは芸術・体育、スワヒリ語が加わった。近い将来、ローカル語と総合生産学科（技術・家庭科のようなもの）が加わる予定である。 ・前期中等教育の必修科目は英語、歴史、地理、数学、物理など8科目あり、選択科目は英文学、キリスト教教育、農業、芸術、経理などから1科目選択する。 ・後期中等教育は自然科学か社会科学のどちらかのコースを選択する。 ・授業は、月曜日～金曜日の午前7時35分～午後4時40分まで行い、40分授業で、午前6時限、午後4時限のハードスケジュールである。土曜日にも補習授業が行われている。
<p>義務教育後の教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育レベルより国家試験を導入しており、初等教育修了試験、前期中等教育修了試験、後期中等教育修了試験が設定されている。他の途上国と同様、教育レベル・学年が上がるごとに女子の就学状況は低下している。これは、両親および社会の女子教育に対する認識の欠落、男子への教育機会の優先、家事労働への動員、早期妊娠、早婚などが原因となっている。
<p>就学前教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部においては、初等教育の準備の観点から、30%程度の幼児がナーサリースクールに通っている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・UPE政策により、就学率は約90%に達したものの、教室不足による教育環境の悪化、教科書の不足、落第者の増加、教員レベルの低下などが大きな課題になっている。
<p>学校生活</p>	<p>休業期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期が2月第1週～5月第4週、2学期が5月第4週～8月第3週、3学期が9月第4週～12月第2週となっているのでこの間が休業期間となる。
	<p>飛び級、落第の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2004年のデータでは初等学校の落第率は13.7%であった。 ・小学生における落第者（試験に落ちると落第する、途中で行かなくなる）の多さが課題である。
	<p>校則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制服代、施設費、教材費などが保護者負担であり、支払えないために就学できない児童も多い。

	子どもの一日	・放課後、クラブ活動や両親の手伝い、テストの準備などでして過ごす。家に帰るのが6時過ぎになり、疲れてしまって食事をしたらすぐに寝てしまう時もある。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・日本語の学習では、「ウ」の発音が巻き舌になってしまうことがある。
	食生活	・マトケ（食用バナナ）や米などを食べる。
	その他	・日本については、最も工業の進んだ国という知識はあるが、日本人や文化についてはほとんど知らず、中国人や韓国人との区別がつかないと話す子どももいる。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ウガンダにおける教育の現状と課題・・・・・・・・東京学芸大学大学院生 千葉みずき
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子